

中国における村上春樹「中国行きのスロウ・ボート」の受容

——「豆瓣網」ユーザーとしての
中国人読者に対する読書調査——

徐子怡

1. 村上春樹による最初の短編小説「中国行きのスロウ・ボート」

1980年4月号の文芸誌『海』（中央公論社、現中央公論新社）に発表された村上春樹による最初の短編小説「中国行きのスロウ・ボート」は、語り手の「僕」が「不確かな」記憶によりながら、小学生、大学生、そして社会人となってから出会った三人の中国人をめぐる回想の物語である。

最初に登場する中国人は、港街に住む小学生の「僕」が模擬テストを受けるために、当時の「僕」にとっては「世界の果て」にも等しい、「港街の山の手にある」中国人小学校へ一人で行った際に、試験場の教室で会おう監督官の中国人教師である。試験開始の10分前に、机にいたずら書きをしないように受験生たちに呼びかけるこの中国人教師は、「中国と日本は、お隣り同士の二つの国でありながら、同国のお友達同士と同じように、わかり合えることと合えないところがある。でも努力すれば、きっと仲良くなれる。しかしそのためには、まずお互いに尊敬しあわねばならない」という話をする。そして、この言葉を20年後の現在でも「僕」ははっきり覚えている。

次の中国人は、「僕」が東京の大学2年生となった春に、アルバイト先で出会った19歳の在日中国人の女子大生である。三週間のアルバイトが終わった最後の夜に「僕」は行き付けの新宿にあるディスコに彼女をデートに誘う。10時過ぎに「僕」は彼女を新宿駅まで送るが、彼女の自宅最寄り駅である駒込とは反対回りの山手線に乗せてしまう。慌てて駒込駅まで先回りした「僕」は彼女に謝り、明日連絡すると告げて別れる。しかし、

次の日「僕」が彼女に連絡しようとしたときに、昨夜彼女の電話番号を控えた紙マッチを煙草の空箱と一緒に捨ててしまったことに気づき、それ以来、彼女とは一度も会うことがない。

三人目の中国人は、28歳の社会人となった「僕」が青山通りに面したおしゃれな喫察店で偶然に再会する高校時代の級友である。当時の彼が都内に住む中国人相手に百科事典の訪問販売をしていることを知り、「僕」は「何年先になるかはわからないけど、余裕ができれば買うかもしれない」と住所を彼に渡すが、中国人の級友は「その頃には俺はもうおそらく百科事典とは縁を切っているんじゃないかな。……次は中国人専門の損害保険かな。それとも墓石のセールスかな。…」と答えて去っていく。

物語の最後に、「既に三十歳を超え」た「僕」は、「ここは私の居るべき場所じゃない」という二番目の中国人女子大生の言葉を思い出し、「東京の街を見ながら、中国のことを」考える。そして、僕は「中国についてもっと多くのことを知りたかった」けれども、「それは僕のためだけの中国でしかない」。「僕はどこにも行けるし、何処にもいけない」「友よ、中国はあまりに遠い」という現在の心境を語って、物語が終わる。

この短編は1983年5月刊行の同名单行本『中国行きのスロウ・ポート』（中央公論社、現中央公論新社）に収録される際に、村上春樹により細部の語りから、主人公たちの会話、そして語り手の心境に至るまで大幅に書き換えられたうえ、1990年9月刊行の『村上春樹全作品』（講談社）への収録時に再び大きな修正を加えられたのである。本論では、主に全作品を底本として分析を進めるが、必要に応じて他の二種類の版本も引用したい。¹

単行本冒頭の執筆経緯によると、「中国行きのスロウ・ポート」は『1973年のピンボール』（1980）と『羊をめぐる冒険』（1982）の間に執筆された村上春樹にとって、最初の短編小説である。また、前述のように作者により二回も書き換えられ、複数のバージョンが存在している。このような度

¹ 初出「中国行きのスロウ・ポート」、『海』（中央公論社、現中央公論新社）1980年4月号。単行本『中国行きのスロウ・ポート』（中央公論社、1983年）。全作品『村上春樹全作品1979～1989 ③』（講談社、1990年9月）。

重なる改編は、「僕」と三人の「中国人」との物語というテーマの重要性を示唆するものと思われる。少なくともこれは当時の村上春樹にとって、大変気がかりなモチーフであったのであろう。

一方、短編執筆から10年後の1990年に、全作品刊行の際に書き下ろした【「自作を語る」—短編小説への試み】では、村上本人が、創作経緯について、「ソニー・ロリンズの演奏で有名な曲「On A Slow Boat To China（中国行きのスロウ・ボート）」からタイトルを抽出し、ファースト・シーンをとりあえず書いた後は、ストーリーが展開していくに任せた、「それ以外にはあまり意味はない」と述べている。更に台湾紙のインタビューに対し、「中国」は自分にとって実在するものではないが、とても大事な「記号」と答えしてもいる。²

このような作家自身の発言に対して、日本の研究者たちは様々な考察を試みてきた。例えば、現代中国文学研究者の藤井省三氏は、主に初版・単行本・全作品の三つの版本を中心に、改稿内容、及びその意味に対して詳細な分析を行っている。作品中で、最初に出会った中国人教師の話から6～7年後の高校三年の時の「僕」は、当時偶然に同じ小学校で受験していたクラスメイトのガールフレンドに対して、「落書きはした？」と問いかけ、記憶があいまいな彼女から「したような気がしないでもないけど」という答えを得た後に、「僕」は「月曜日の朝、自分の机の上に誰かの落書きを発見した中国人の少年のこと」を思い浮かべ「沈黙」する。藤井氏によれば、この「落書き」とは「最初の中国人」に対する裏切りであり、デート相手への不毛な問いかけに続く「沈黙」という結びは、「僕」が、実は自分は罪を犯していたのではないかと無意識の世界、あるいは忘却の過去へと降りていく過程を示唆していると解釈する。³そして藤井氏は、全

² 洪金珠「村上春樹の魂には中国の記号が住んでいる（村上春樹的靈魂裡住着中国印记）」『中国時報』1998年8月5日。

³ 藤井省三「「中国」への背信と原罪—「中国行きのスロウ・ボート」論」UP：University press、東京大学出版会【編】2006年6月、32頁。藤井省三著『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社、2007年7月、41頁。

作品でこの会話の部分が全部削除された点を指摘した上で、「中国行きのスロウ・ボート」というテキストは何度もの改稿を経て、「僕」が「過去」を友とし、背信と原罪とをより深く自覚することにより到達した、旅立ちのための港であったと結論した。⁴

このような村上春樹が意識的に「中国」をモチーフにした作品という意見は日本文学研究者の山根由美恵氏による指摘—「……忘却の政治が国家レベルだけではなく、「僕」という個人にも浸透している事実が描かれている……トラウマを語るという物語化のなされた内なる差別の物語であり、内化の文学であるとともに、『羊をめぐる冒険』、『ねじまき鳥クロニクル』、『アンダーグランド』等に続く対社会意識の作品群の出発点として位置づけられる」⁵—もあげられる。

一方、作中に登場する三人の「中国人」は「日本人自身の象徴」である⁶、または「日本人に対する他者の総体」⁷などのような中国はあくまでも「記号」にすぎないという意見も見られる。

中国では、この作品が最初に翻訳・刊行されたのは2001年4月のことである。桂林・漓江出版社刊行の「村上春樹作品精選集」シリーズの同名短編集『中国行きのスロウ・ボート』（中国語訳名：《開往中国的慢船》）に収録されており、翻訳者は雪蕪という人物であった。これについて、藤井省三の考察により、「雪蕪」という翻訳者は実際には架空の人物であり、漓江版「中国行きのスロウ・ボート」の「正体」は台湾版頼明珠訳の盗用であることがのちに分かった。その後出版社変更の際に、翻訳者は上海・譯文出版社の「村上作品御用訳者」の林少華（リン・シャオホワ、りんしょ

⁴ 前注3、「[中国]への背信と原罪—「中国行きのスロウ・ボート」論」35頁。『村上春樹のなかの中国』46頁。

⁵ 山根由美恵「村上春樹「中国行きのスロウ・ボート」論—対社会意識の目覚め—」国文学攷(173) 広島大学国語国文学会 2002年3月。

⁶ 阿部好一「村上春樹論の試み—短篇二、三の読解をめぐって」『神戸学院女子短期大学紀要』（第22号）1989年3月。

⁷ 田中実「港のない貨物船—「中国行きのスロウ・ボート」国文学解釈と鑑賞 55(12), 1990年12月。

うか、1952～)に代わり、2002年6月に同社刊行の「村上春樹文集」の一冊として再版され、2008年刊行の「村上春樹全集」にも再収録されている。

二度改稿が中国語版の翻訳に反映されていないため、改稿の内容分析及びその意味に対する追求は中国ではあまり注目されていない。中国の研究者たちが議論しているポイントは、作中の「中国人」の「虚」と「実」の問題、または村上春樹が「僕」と三人の中国人との物語を通して批判的に語る、日本・日本人の無関心さに関する分析などに限られている。

中国における雑誌記事や論文を網羅するデータベース中国知識資源総庫(CNKI)で「村上春樹」と「中国行きのスロウ・ボート」をキーワードとして検索した結果、「中国行きのスロウ・ボート」の翻訳本が初めて中国に登場した2001年から現在(2014)までの間に85の文章がヒットした。ちなみに、同じ検索方法でヒットする「ノルウェイの森」の関連記事及び論文は1989年から現在(2014)までに396篇がある。

「中国行きのスロウ・ボート」は中国の村上ファンの間で必読作品であるというわけではないのだが、それにもかかわらず同作に関連する文章が「ノルウェイの森」に関する文章の1/4弱に達しているのは、中国でも村上研究の世界では、同作が比較的注目されている作品であるためなのであろう。一方、村上作品を大量に消費する一般的な村上読者にとって、「中国行きのスロウ・ボート」は如何なる作品であるのか、この問題を考察するためには、中国の人気書き込みサイト「豆瓣網」が助けになるかもしれない。

これまでの研究において、筆者は複数の論文、または口頭発表で豆瓣網について言及をしたが⁸、本稿で改めて簡潔に紹介すると、「豆瓣網」とは一言で説明すれば、現代中国の若者たちの間で大変流行している、読書・音楽・映画・ブログなど幅広い分野で様々な機能を網羅した文化交流ネットのことである。中でも「豆瓣読書」・「豆瓣電影」・「豆瓣音楽」の三つのサブサイトは「豆瓣網」で最も人気のある三大批評ブロックとされている。「豆瓣網」では、一冊の本に対して、「[想読]（読みたい）」「[在读]（読んでいる）」「[读过]（読んだ）」の三つの選択肢があり、筆者が使用する「読書人数」データは、作品の版本ごとに「[读过]（読んだ）」を選択した人数のトータル値を算出したものである。

このような方法を用いて、「豆瓣網」における「中国行きのスロウ・ポート」の「読書人数」を見てみると、2014年5月26日零時現在までの「読んだ」人数は10,994人である。筆者が同様の調査を行った2013年10月1日の10,553人と比べると、約半年間の読書人数の増加は441人である。ちなみに、これを同時期の『ノルウェイの森』の読書人数（274,822人）

⁸ 【論文】①「中国における村上チルドレンと村上ファッション—人気書き込みサイト「豆瓣網」をめぐる冒険」『ユリイカ』、青土社、2012年7月号。②「中国の村上春樹読者は如何に「村上チルドレン」を読むのか—「豆瓣網」における中国の村上読者に対する安妮寶貝の読書調査」『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第16号、2013年11月。③「『ノルウェイの森』から墨（メ）脱（ド）の『蓮花』へ—中国の村上チルドレン作家、安妮寶貝の村上春樹受容を中心に—」『東方学』127輯、2014年1月。【口頭発表】④「書き込みサイト豆瓣網を中心とする中国の村上春樹受容」、2012年7月21日、東大中文村上春樹研究会第四回研究集会、東京大学文学部。②「『ノルウェイの森』から墨脱の『蓮花』へ—中国の「村上チルドレン」作家安妮寶貝の村上春樹受容を中心に」、2012年12月28日、第4回ソウル—東京現代中国文学ワークショップ、韓国・高麗大学大学院。③「中国の村上春樹読者は如何に「村上チルドレン」を読むのか—豆瓣網における中国の村上読者に対する安妮寶貝の読書調査」、2013年7月13日、東京大学中文研究室主催、国際シンポジウム「村上春樹をめぐる中国との対話」、東京大学山上会館。④「中国における村上春樹「中国行きのスロウ・ポート」の受容—人気書き込みサイト「豆瓣網」読者ユーザーとの対話—」、2013年10月13日、日本中国学会第65回大会、秋田大学。

と同じく半年前の2013年10月1日からの増加人数（15,071人）と比べれば、両作の人気度における大きな格差は一目瞭然であった。村上春樹が「中国」または「中国人」を主な題材として書いた作品が中国では中国人が一人も登場しない『ノルウェイの森』に対し人気において遠く及ばない現象は不思議に思われるかもしれない。

その原因について、筆者は2012年7月号の文芸誌に発表した小論での結論は、中国の村上読者たちの長編重視の志向であるが、⁹これだけでは、「中国行きのスロウ・ポート」の中国における「不人気さ」の理由としてはまだ不十分だと思われる。そこで、筆者は昨年（2013）の9月から今年（2014）の2月にかけて、「豆瓣網」における「中国行きのスロウ・ポート」の読者150人に対して、ネットインタビューを実施した。本調査の方法及び結果との詳細は以下のとおりである。

2. 「豆瓣網」中国人読者に対する「中国行きのスロウ・ポート」の読書調査

- 実施期間：2013年9月27日～2014年2月27日
- 実施場所：「豆瓣網」<http://www.douban.com/>
- 実施対象：調査の開始時点（2013年9月27日）で「豆瓣網」の正式アカウントを有し、且つ中国語訳「中国行きのスロウ・ポート」（台湾時報出版の頼明珠訳も含む）に対して「読んだ」を選んだ読者たちの中からランダムで抽出した150名の読者ユーザー。
- 実施方法：「豆瓣網」に付着するメール機能である「豆郵」を通して、調査対象グループの150人にアンケート調査表を送り、ネットインタビューを実施する。
- 有効回答：2014年2月27日零時まで回収できた69通の返事の内有効回答は60通である。
- 回収率：46%

今回の調査において、調査結果を回答者の基本情報及び「中国行きのス

⁹ 前注8の【論文】①。

「ロウ・ボート」の読書感想の二部に分けて整理・分析した結果は以下のとおりである。

(1) 回答者の基本情報について

(※「M」=男性；「F」=女性；「/」=無回答)

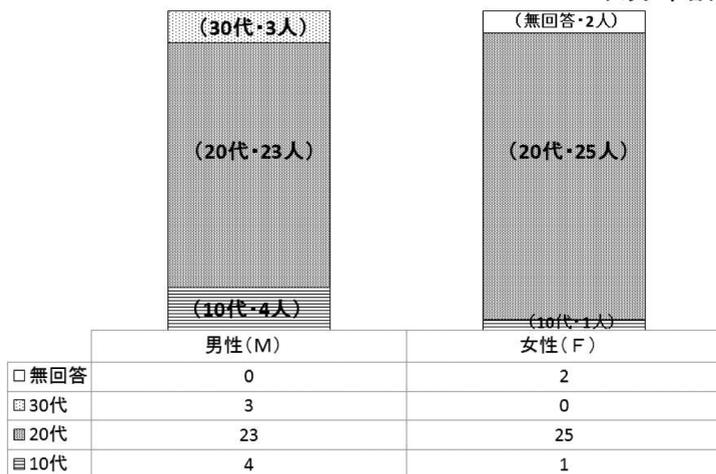
調査番号	ユーザー名	性別	年齢(歳)	出身地	現在地	職業	好きな村上作品のジャンル
130928-1	麦子	F	20	広西省南寧市	広西省柳州市	学生	短篇、エッセイ
130928-2	回形針	F	27	天津市	北京市	編集者	長篇、短篇
130928-3	vakaka	M	22	河北省新楽市	北京市	学生	長篇
130928-4	night、	F	22	河南省濮陽市	陝西省西安市	学生(大学生)	短篇、エッセイ
130928-5	自言自语 愛秋天	F	23	湖北省潜江市	湖北省武汉市	学生(大学院生)	長篇
130928-6	马赛克	M	26	山东省滕州市	江苏省南京市	エンジニア	短篇
130928-7	Crazychild	F	24	広東省広州市	広東省広州市	学生	短篇、長篇 ノンフィクション
130928-8	closer	/	19	湖南省懷化市	湖南省懷化市	学生	長篇
130928-9	站台上的曹小武	F	20	四川省自貢市	四川省成都市	学生	長篇
130928-10	阿捷赫	F	23	河南省洛陽市	上海市	/	長篇、短篇
130929-11	搓格子	F	28	湖北省武漢市	湖北省武漢市	記者	短篇
130927-12	Angelacc	F	26	江蘇省昆山市	韓国ソウル	留学生(大学院)	長篇
130928-13	戴舒华	F	/	/	/	フリーライター	短篇
130928-14	CherryBomb (May)	F	21	江西省宜春市	広東省珠海市	学生	短篇
130928-15	彰	F	18	陝西省西安市	福建省アモイ	学生	長篇、短編、 エッセイ ノンフィクション
130928-16	阿烈	M	20	江蘇省丹陽市	北京市	学生	長篇
130930-17	以然	M	22	遼寧省瀋陽市	遼寧省瀋陽市	学生(大学生)	長篇、短編、 エッセイ
130929-18	悠谷	F	26	北京市	北京市	会社員 (PR関係)	長篇

130929-19	土土土	F	23	河南省 許昌市	上海市	学生 (大学院)	長篇、短編
130929-20	魚罐头	F	21	重慶市	重慶市	学生	長篇
130929-21	以利亚・贝莱 (旧：闷声作大死)	M	24	/	/	学生	長篇
130929-22	鸢	F	23	河南省 焦作市	河南省 焦作市	無職	長篇
130929-23	末世大亨	M	25	遼寧省 凌原市	遼寧省 朝陽市	会社員 (IT 関係)	長篇
130929-24	翻滚的蛋	M	23	安徽省 宣城市	浙江省 湖州市	学生	長篇
130929-25	Dead Mermaid	M	27	山東省 済南市	山東省 済南市	会社員 (エンジニア)	短篇、紀行記
130930-26	木鸡腿	F	28	四川省 成都市	四川省 成都市	会社員 (メディア)	長篇、エッセイ 短篇、紀行記
130930-27	穿短裤的云	M	24	江蘇省 姜堰市	江蘇省 昆山市	記者	長篇、エッセイ 短篇
130930-28	灿烂星光	M	20	湖南省 郴州市	湖南省 郴州市	学生 (大学生)	長篇、 ノンフィクション
130930-29	copy12	M	32	湖南省	北京市	/	短篇
130930-30	青の鳥	M	18	河北省 張家口市	河北省 張家口市	学生	長篇
131008-31	瑞瑞瑞瑞 D	F	23	山東省 泰安市	山東省 煙台市	学生	長篇、エッセイ
131002-32	Uncle Rain	M	31	雲南省 昆明市	雲南省 昆明市	会社員 (不動産)	短篇
130929-33	惡魔的黒執事	F	24	天津市	天津市	学生	長篇
130929-34	iamlucy	F	22	安徽省 阜陽市	安徽省 合肥市	学生	長篇、短編
130929-35	聊游周章	M	24	江蘇省 南京市	江蘇省 南京市	雑誌編集者	長篇
130929-36	失缺先生	M	21	広東省 広州市	広東省 広州市	学生 (大学生)	長篇
130929-37	超級大武生	M	22	吉林省 長春市	吉林省 長春市	学生	長篇、短編
130928-38	Hythcoco (旧：Kanan)	M	21	浙江省 温州市	上海市	学生	短篇
130929-39	陶菲菲 Tiffany	F	24	広東省 潮州市	広東省 広州市	会社員 (メディア)	エッセイ
130930-40	chrono	M	23	上海市	上海市	無職	長篇
131006-41	吉恩玛吉	F	22	山東省 淄博市	上海市	学生	短篇

130930-42	TsingMK	M	20	遼寧省 丹東市	遼寧省 大連市	学生	長篇、短編
130930-43	拧发条鸟	M	16	湖南省 湘潭市	湖南省 湘潭市	学生	長篇、エッセイ
131001-44	42	M	21	甘肅省 天水市	北京	学生	長篇
130245-45	小中	M	36	台湾 台北市	北京	美術関係	長篇
131002-46	forever young	F	25	福建省 平潭市	福建省 平潭市	フリーター	短編
131003-47	simon lin	M	26	浙江省 温州市	浙江省 温州市	IT 関係	長篇
131004-48	等待ふじとな	M	18	山東省 煙台市	山東省 煙台市	学生	長篇、短編
131007-49	Maryjanesue	F	25	浙江省 杭州市	アメリカ シカゴ	学生	長篇、短編
131008-50	glora	F	24	吉林省 舒蘭市	吉林省 舒蘭市	学生	長篇
131011-51	伊西朵拉	F	28	雲南省	北京市	会社員 (PR 関係)	長篇
131012-52	老张	M	24	湖南省 長沙市	北京市	IT 関係	長篇、短編
131013-53	草莓秋千	F	17	四川省 成都市	四川省 成都市	学生	短編
131013-54	子午那奔	M	19	重慶市	重慶市	学生	長篇
131017-55	完美黑暗	M	26	広東省 樂昌市	広東省 深圳市	会社員	長篇
131031-56	誉	M	26	湖北省 孝感市	湖北省 襄陽市	エンジニア	長編
131112-57	DO ~小 SHAME	M	22	広東省 揭陽市	山東省 青島市	/	長篇
131127-58	斯普特尼克幻想	M	26	山東省 泰安市	山東省 青島市	学生 (博士課程)	短編
131207-59	自由的番茄酱	F	/	河北省 保定市	河北省 保定市	学生	長篇
140227-60	melody	F	28	河南省 信陽市	北京市	学生	長篇

以上の基本情報から整理した回答者による性別と年齢の分布は【図2-(1)-1】に示すが、回答者全員の男女比率は30(M):29(F)(無回答1人、計60人)でほぼバランスが取れていた。年齢層は20代~30代の間に集中し、回答者の85%がこの層に属している。そのなかでも特に20代(20歳~29歳)の回答者が全体の80%、性別ごとでは男性回答者の76%、女

図2-(1)-1 豆瓣網における「中国行きのスロウ・ボート」読者による性別と年齢の分布図（2014年2月27日までの集計データより）
出典：筆者作成



性回答者の86%を占めていることが分かった。

回答者たちの出身地について述べると、中国で通用されている秦嶺山脈と淮河を結ぶ「秦嶺・淮河線」により南北を区分すれば、北部出身者の24人に対して、南部出身者は33人であった。その内訳は【表2-(1)-1】にある「出身地」欄の通りである。回答者の回答時における職業は、学生(36人)が圧倒的に多く、回答者全員(60人)の半分以上を占めている。学生に続きメディア関係、IT関係、編集者などの社会人のほか、フリーターや無職の回答者もいる。職業に関する調査結果は【表2-(1)-2】に示した。回答者たちが回答した時点で生活の拠点として滞在しているいわゆる「現在地」に関して、よく見られるような大都市(例えば、北京、上海、広州)への集中、及び海外への移動以外は、地域間の移動がそれほど激しくはなかった。その原因は恐らく回答者のなかでまだ地域の学校に在籍している学生が多いためであると思われる。その「現在地」の統計詳細は同じく【表2-(1)-1】の「現在地」欄で参照できる。

【表 2-(1)-1】 (2014 年 2 月 27 日までのデータより)

出典：筆者作成

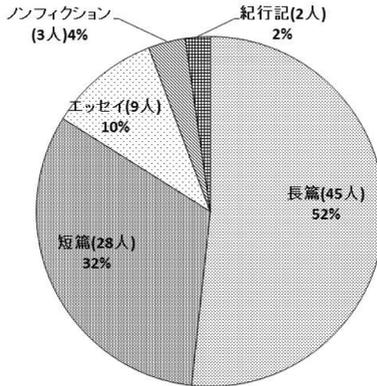
	都市名	出身地	現在地		都市名	出身地	現在地
北部	北京	1	10	南部	上海	1	5
					湖北省	3	3
	天津	2	1		湖南省	5	3
					広東省	5	5
	河北省	3	2		広西省	1	1
					江西省	1	0
	河南省	5	1		江蘇省	4	3
					四川省	3	3
	吉林省	2	2		重慶省	2	2
					安徽省	2	1
	遼寧省	3	3		雲南省	2	1
	山東省	6	5		浙江省	3	2
甘肅省	1	0		福建省	1	2	
陝西省	1	1					
北合計		24	25	南合計		33	31
無回答		2	2		台湾	1	0
				韓国	0	1	
				アメリカ	0	1	

【表 2-(1)-2】 回答者の職業一覧表 (2014 年 2 月 27 日までのデータより)

出典：筆者作成

職業	人数	職業	人数
学生	36	記者	2
PR / メディア	5	エンジニア	2
IT 関係	4	会社員	2
編集者	2	無職	2
フリーター	2	無回答	3
合計		60	

図2-(1)-3 豆瓣網における「中国行きのスロウ・ボート」読者による好みの村上作品ジャンルの統計図(多選択式)
(2014年2月27日までの集計データより)
出典:筆者作成



また、今回の調査では調査対象者に対して好きな村上作品のジャンルについて質問したところ、【図2-(1)-3】のような回答結果となった。多選択式の質問なので、分母の回答総数が回答総人数の60より多くなり、87となった。筆者がこのような作品のジャンルごとに調査を行ったのは2011年5月実施の「豆瓣網における村上文学の読書人数調査」が最初だった。¹⁰ 当時の調査では長篇読書の傾向を持つ読者たちが他のジャンルより桁の違うほど圧倒的だった結果と比べれば、今回の「中国行きのスロウ・ボート」の読書調査では長編派(45人)VS短編派(28人)、両派の差はそれほど大きくはない。この結果から、「中国行きのスロウ・ボート」に対して比較的に関心を持つ読者たちのなかには【短篇派】が多いことが推定できる。

(2) 回答者による「中国行きのスロウ・ボート」の読書体験について

続いて、回答者たちによる「中国行きのスロウ・ボート」の読書体験及び村上作品に登場する「中国」・「中国人」に対する印象についての調査結果を見てみたい。

¹⁰ 前注8の【論文】①、43頁。

(※『森』 = 『ノルウェイの森』; 『国境』 = 『国境の南、太陽の西』; 『海』 = 『海辺のカフカ』; 『世界…』 = 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』; 『スプ…恋人』 = 『スプートニクの恋人』; 『風』 = 『風の歌を聴け』; 『ダンス』 = 『ダンス・ダンス・ダンス』; 『中国行き…』 = 『中国行きのスロウ・ボート』; 『／』 = 無回答)

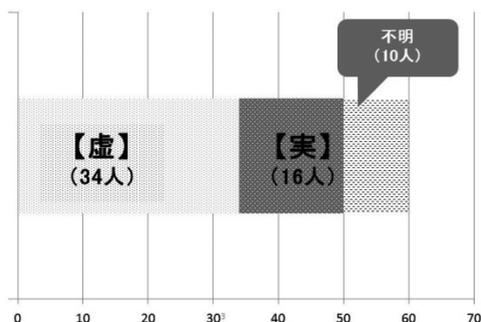
調査番号	ユーザー名	「中国行き…」 の読書体験		村上作品の中国人象 に対して		村上読者 最も好きな村 上作品
		初読書 の年齢 (歳)	作中に登場す る中国人の 【実】と【虚】 について	最も印象に残った 「中国」・【中国人】	中国要素が 登場するから こそ親近 感を持つ	
130928-1	麦子	／	【実】	無	いいえ	『羊』
130928-2	回形針	27	【虚】	無	はい	『世界…』
130928-3	vakaka	16	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	はい	『中国行き…』
130928-4	night	／	【虚】	ジェイ 『風』	はい	『スプ…恋人』
130928-5	自言自语 愛秋天	／	／	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『海』
130928-6	马赛克	／	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『森』
130928-7	Crazychild	／	／	無	いいえ	『森』
130928-8	closer	／	【虚】	無	いいえ	『森』
130928-9	站台上的曹小 武	／	／	無	いいえ	『1Q84』
130928-10	阿捷赫	／	【虚】	無	いいえ	『羊』
130929-11	搓格子	27	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『風』
130927-12	Angelacc	／	【虚】	無	いいえ	『世界…』
130928-13	戴舒华	／	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『森』
130928-14	CherryBomb (May)	／	【虚】	無	いいえ	『世界…』
130928-15	彰	／	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『風』
130928-16	阿烈	／	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『1Q84』
130930-17	以然	19	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『森』
130929-18	悠谷	24	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『国境』

130929-19	土土土	22	／	三人の中国人 『中国行き…』	はい	『世界…』
130929-20	魚罐头	20	／	無	はい	『1Q84』
130929-21	以利亚・贝莱 (旧：岡声作 大死)	18	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『国境』
130929-22	鸢	19	／	無	いいえ	『海』
130929-23	末世大亨	22	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『海』
130929-24	翻滚的蛋	22	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	はい	『森』
130929-25	Dead Mermaid	22	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『森』
130930-26	木鸡腿	17	【虚】	無	いいえ	『海』
130930-27	穿短裤的云	／	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『海』
130930-28	灿烂星光	17	【実】	無	いいえ	『ダンス』
130930-29	copy12	31	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『遠い太鼓』
130930-30	青の鳥	／	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	はい	『森』
131008-31	瑞瑞瑞 D	／	【実】	無	はい	『海』
131002-32	Uncle Rain	18	／	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『風』
130929-33	恶魔的黑执事	17	／	中国描写 『边境・近境』	／	／
130929-34	iamlucy	21	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『森』
130929-35	聊游周章	／	【虚】	無	いいえ	『森』
130929-36	失缺先生	18	【実】	ジェイ 『風』	いいえ	『風』
130929-37	超级大武生	17	【虚】	ジェイ 『風』	／	『風』
130928-38	Hythcoco (旧：Kanan)	／	【虚】	ジェイ 『風』	はい	『風』
130929-39	陶菲菲 Tiffany	21	【実】	中国人売春婦 『アフターダーク』	はい	『森』
130930-40	chrono	20	【実】	ジェイ 『風』	いいえ	『世界…』
131006-41	吉恩玛吉	／	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『風』

130930-42	TsingMK	／	【虚】	中国人売春婦 『アフターダーク』	いいえ	『羊』
130930-43	拧发条鸟	／	／	ジェイ 『風』	はい	『世界…』
131001-44	42	19	【虚】	ジェイ 『風』	はい	『海』
130245-45	小中	／	【虚】	無	いいえ	『風』
131002-46	forever young	／	／	無	はい	『羊』
131003-47	simon lin	／	【虚】	無	いいえ	『海』
131004-48	等待ふじとな	／	【虚】	ジェイ 『風』	いいえ	『風』
131007-49	Maryjanesue	23	【実】	無	いいえ	『森』
131008-50	glora	19	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	はい	『1Q84』
131011-51	伊西朵拉	21	【虚】	無	いいえ	『世界…』
131012-52	老张	23	【虚】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『海』
131013-53	草莓秋千	／	【実】	三人の中国人 『中国行き…』	いいえ	『海』
131013-54	子午那弈	17	【実】	ジェイ 『風』	いいえ	『風』
131017-55	完美黑暗	／	【実】	バイク男 『アフターダーク』	いいえ	『ダンス』
131031-56	誉	24	【虚】	ジェイ 『風』	はい	『1Q84』
131112-57	DO～小 SHAME	19	【虚】	中国描写 『辺境・近境』	はい	／
131127-58	斯普特尼克幻 想	／	【実】	無	いいえ	『森』
131207-59	自由的番茄酱	／	【虚】	無	いいえ	『羊』
140227-60	melody	27	【虚】	ジェイ 『風』	いいえ	『ダンス』

回答者の初めて「中国行きのスロウ・ボート」を読んだ年齢について、「はっきり覚えていない」と答えた人が半分近くの29人がいた。残りの回答者31人のうち、「10代」が14人、「20代」が16人、「30代」が1人という結果になっている。これを2011年6月に実施した『ノルウェイの森』の初読書年齢調査で収集できた100人のうち、「覚えていない」1人、「10

図2-(2)-1 豆瓣網における「中国行きのスロウ・ボート」読者による作中人物の【実】と【虚】についての統計(2014年2月27日までの集計データより)
出典:筆者作成



代」73人、「20代」25人、「30代」1人の回答状況と比べれば、「中国行きのスロウ・ボート」が中国の読者たちにとって、それほど印象深い作品ではないことが伺える。それと同時に、『ノルウェイの森』の初読書年齢が「10代」に圧倒的に集中している状況とは異なり、「中国行きのスロウ・ボート」の場合は「20代」に初めて読書した人がやや多いことが分かる。

次に「中国行きのスロウ・ボート」に登場した三人の中国人の【実】(写実的な中国人の描写)と【虚】(単なる記号)の質問に対して、【図2-(2)-1】で表記されているように【虚】であると答えた人が【実】(16人)の2倍強の34人だった。そして【実】か【虚】かが「よくわからない(不明)」という回答が10人であった。

また、「作中に中国、あるいは中国人が登場するからこそ親近感を感じるか、否か」の質問について、2人の無回答をのぞき、多くの回答者(42人)がその原因で村上作品に対する興味が一層高まるというわけではないと明言している。更にその「いいえ」と回答した回答者の具体的な意見を見ると、例え中国・中国人が登場しても、それは自分と関係のある身近な存在の中国、または中国人とは全く感じられず、共感を覚えないという意見を持つ人がほとんどだった。

作中に登場した中国、または中国人に対して共感を覚えないからであるためなのだろうか、「村上作品に登場する中国、あるいは中国人に対して、

最も印象深かったのがどの作品の誰か？」の質問に対して、「ほとんど印象がない」と答えた人が回答者全体の35%を占める21人だった。第二位の「『中国行きのスロウ・ボート』に登場する三人の中国人」の回答者が18人、『『風の歌を聴け』の中国人バーテンダーのジェイ』11人、『『アフターダーク』の中国人売春婦』7人、『『辺境・近境』の中国に関する描写』2人、『『アフターダーク』のバイク男』1人という結果になっている。

ちなみに、回答者たちにとって最も好きな村上作品は、『ノルウェイの森』(13人)、『海辺のカフカ』(10人)、『風の歌を聴け』(10人)、『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(7人)、『羊をめぐる冒険』(5人)、『1Q84』(5人)、『ダンス・ダンス・ダンス』(3人)、『国境の南、太陽の西』(2人)、『中国行きのスロウ・ボート』(1人)、『スプートニクの恋人』(1人)、『遠い太鼓』(1人)、無回答(2人)という結果である。前述のように、今回の調査対象において、「短編派」が比較的集中しているとはいえ、最も好きな村上作品と言え、やはり長篇、特に中国では不動の人気を誇る『ノルウェイの森』であることが分かった。

3. まとめ

以上の「豆瓣網」における読者ユーザーを中心として実施したインタビュー調査を通して、中国の村上読者たちの村上春樹による最初の短編小説「中国行きのスロウ・ボート」の読書状況を「基本情報」および「読書初体験」の二部に分けて考察を行った。多様なデータに基づき分析した結果を参考しながら、最後に「中国行きのスロウ・ボート」の中国における「不人気さ」の原因を考察したい。

本調査を含め、筆者によるこれまでの3回の村上読書に関する調査を通して、中国人読者の村上作品に対する長編重視の傾向が確認された。そのため、前述のように例え今回の調査対象の中に短編好きの読者が比較的多く存在しても、最も好きな村上作品はやはり長篇に集中するのであろう。その理由は多くの長編好きの回答者からの意見を集約すれば、「村上作品の精髓は長編でしか読み取ることができない」となるだろう。

それと同時に本調査を通して、新しく浮上したのは中国人読者の村上作

品に登場する中国、あるいは中国人に対する無関心である。上述のように、作中の中国、あるいは中国人が登場するからこそ親近感を感じるかどうかの質問に対して、無回答の2人を除いた回答者58人のうち、「いいえ」と答えた人が42人、回答者全体の7割強を占めている。その原因は中国人読者にとって、村上作品に登場する中国人たちが自分にとって共感できる中国人ではない、つまり「単なる記号にすぎない中国人」からである。それは「中国行きのスロウ・ボート」の作中人物である三人の中国人の【虚】【実】に関する質問への回答と関連している。【実】か【虚】かがよくわからないと回答した10人を除く50人のうちに【虚】であると答えた回答者は34人だった。そのなかの一人、調査番号130928 - 2の「回形針」(26歳、女性、編集者)による回答は、村上作中の中国人解釈に対して新たなヒントを与えてくれるかもしれない。

【虚】“……这三个人与村上大量的短篇中出现的日本人几乎区别不大，无归属感的漂泊者……以村上一贯的世界性视角来说，这几个中国人并未从行为上展现出特别的“中国性”（この三人は村上による多くの短編に出てくる日本人とほとんど区別がなく、帰属感のない漂泊者……村上による一貫した世界的視点から見れば、この中国人たちは別に行動上に特別な「中国性」を表していない。）”

中国人らしくない中国人—それは日本の、更に具体的に言えば神戸の華僑を連想させる。つまり、「中国行きのスロウ・ボート」の三人の中国人は恐らく村上春樹にとって、「100パーセント」¹¹の中国人、言い換えれば、【実】の中国人であるのかもしれないが、それはあくまでも村上が少年時代に生活していた神戸の華人の姿なのである。村上にとって「100パーセント」の「中国人」と、中国で生まれ育った中国人読者にとっての自己イメージとしての「中国人」との間には「はざま」が存在しているのである。しかし、今回の豆瓣網における読者インタビューでは、中国の読者はこの「はざま」の存在を、別に説明を受けずとも、自然に納得していることが伺える。

ここで、再び「中国行きのスロウ・ボート」の「僕」の次のような言葉を思い出してみると、「それでもその中国は、僕のためだけの中国でしかない。それは僕にしか読みとれない中国である。……友よ、中国はあまりに遠い」——この一節からは、村上春樹が執筆開始当初から、自らが描く中国人イメージが在日華僑と重なっていること、さらに言うなら、そこに限定されることを自覚していたのではないだろうか、と推定されるのである。

一方、【実】であるという意見の中には、日本政府による2012年9月の尖閣諸島（中国名：釣魚島）国有化をきっかけとして日中両国の関係が悪化した時期に「中国行きのスロウ・ボート」を二回読み返したと告白した調査番号130930-28「灿烂星光」（17歳、男性、大学生）による下記のような興味深い回答もある。

¹¹ 短篇集『カンガルー日和』（平凡社、1983）に「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」という短編が収録されている。また、1987年9月講談社より刊行された単行本の『ノルウェイの森』では、村上本人による小説に対する話題のキャッチフレーズである「100パーセントの恋愛小説」が、単行本の上下二冊の帯で使用されている。これらの作品がのちに中国語に翻訳されると、「100パーセント」という言葉は中国語圏において人気を呼ぶようになった。本論では、このような背景を踏まえつつ、「100パーセント」を使用した。

【実】“三个中国人代表了村上对中国人的三种态度。对老师的怀念是一种在我个人看来是对中国近代知识分子如鲁迅那批人的崇敬 至于对女孩则是日本侵略的一种隐晦的悔过意识。至于最后的词典男，个人认为是对中国发展的关注。（三人の中国人は村上の中国に対する三種の態度を代表している。私個人からみれば先生に対する懐かしさは魯迅のような中国の近代知識人たちへの敬意であり、女の子の場合は日本侵略（戦争）に対する潜在的な懺悔の意識である。最後の辞書男の場合は、（村上の）中国の発展に対する関心だと個人的には思っている。）”

日中関係が敏感になっていた時期に、一人の大学生が村上春樹による中国と関連のある作品から近代日中関係史を振り返ろうとしていたのである。中国人読者にとっての村上作品が、多くは典型的な「プチブル」の物語として若者たちに恋愛のノウハウや、健康的且つ優雅な生活スタイルを教えてくれるという印象を与えているのとは別に、日中関係の不調期に両国関係の先行きを懸念する中国の若者たちにとって、思考の重要な手がかりとなっている一面も窺がえるのである。

村上春樹による最初の短篇小説「中国行きのスロウ・ボート」は日本でも中国でも、決して村上作品の中で抜群の人気作とは言えない。しかし、この珠玉の一篇は、中国人読者たち、特に中国の若者たちに様々な思考を促す一篇であることは間違いない。また藤井省三氏が「……最初に書いた短編小説であり、自らの第一短編集の表題に同作の題名を用いたことから、（村上）の「中国行き…」に対する深い思い入れがうかがえよう」¹²と指摘しているように、短編第一作でいきなり「中国人」をモチーフとして取り上げたことから、「中国」あるいは「中国人」の存在が村上春樹にとってどうしても避けることができない重要なテーマであると筆者も考えている。

今後は、中国人読者による村上作品に登場する中国的要素への反応に注目し続けると同時に、「中国行きのスロウ・ボート」の中国文学に対する

¹² 前注2、『村上春樹のなかの中国』38頁。

影響も考察したい。これにより、村上春樹と中国との深い文学的因縁の一端を解明できることであろう。

(了)

※【本稿中のインタビューに関連する個人情報保護の声明】

現在中国における個人情報保護法令はまだ正式に頒布されていないため、本研究で行っているインタビューに際しては日本の個人情報保護法令を基準として対応している。

日本の個人情報保護法令（平成一五年五月三十日法律第五十七号。最終改正：平成二十一年六月五日法律第四十九号）の定義第二条によると、「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるものをいう（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）

本研究で行っているインタビューは、匿名性ネットを通じて協力を得たネットユーザーを対象とするものであり、収集する個人情報は特定の個人を識別するものではないため、個人情報保護法令の対象外となる。尚、本アンケート回答内容の使用権利に関して、筆者は回答用アンケートメールの冒頭で、「アンケート企画実施者（申請者）が当アンケート回答内容を研究目的のため使用することに同意したうえで返信してください」と明記した。